

勝占忌部氏 伝説の地

遠見岬神社

とみさきじんじや



南房総 勝浦

遠見岬神社

へようこそ

遠見岬神社へようこそ。

当社は、房総半島に

技術と文化をもたらした

天雷命をお祀りする古社です。

その御由緒ははるか昔、

初代天皇・神武天皇の御代の

お話まで遡ります。

四国から房総へと

渡られた天雷命は

関東全域の発展に寄与されました。

そして技術の伝承ののちに

当地に住まわれたと伝えられます。

江戸時代になると勝浦は、

「勝浦三町江戸勝り」と

例えられたほど繁栄するに至ります。

時が下った現在では、

時が下った現在では、



Contents

01 南房総勝浦 遠見岬神社へようこそ

02 目次

03 遠見岬神社ものがたり

関東を開拓した神様・天富命

房総半島に渡り、文化を伝える

勝浦城建設、海上の要衝として発展

現在地に遷座、庶民の生活を守護する社へ

遠見岬神社に改称 そして現在

07 日本三大朝市のひとつ
勝浦朝市に行こう！

08 境内を歩く

09 四季を彩るお祭り

10 歴史に触れる 御神宝

11 ぐるり勝浦 観光マップ

13 遠見岬神社がある生活

14 かつうらビッグひなまつり写真

レジャーや観光、
街全体が雛人形に彩られる
かつうらビッグひなまつりなど、
全国から人々が集う地となりました。
勝浦の地を古くより
見守り続ける天富命は
今も静かに人々を
お守りくださっております。

平成23年9月13日 第1刷 発行

発行 遠見岬神社

〒299-5233 千葉県勝浦市浜勝浦1番地

TEL:0470-73-0034 FAX:0470-73-2007

<http://www.tomisaki.or.jp/>

編集 株式会社近代出版社

デザイン 青木 康

印刷 アルプス印刷株式会社

遠見岬神社ものがたり

関東を開拓した神様・天富命

当社の御祭神・天富命（あめのとみのみこと）は、忌部氏（いんべし・斎部氏）という一族に属します。忌部氏とは、天太玉命（あめのふとだまのみこと）を祖とする一族で、中臣氏とともに朝廷の祭祀を司り、祭具の製造や宮殿・神殿の造営などを行う名門氏族でした。

平安時代に書かれた神道資料『古語拾遺』によると、始祖の天太玉命は、高皇産霊神（たかみむすびのかみ）の子と伝えられています。高皇産霊神の娘と結婚して生まれたのが、天皇家の祖先・瓊杵尊（にぎのみこと）です。瓊杵尊が天照大神より地上を治めるように言われ、地上に降臨した際に天太玉命も従いました。天富命は、この天太玉命の孫にあたる神様です。

天富命の御事績の一つを『古語拾遺』に見ることができます。初代天皇である神武天皇は東征を終え、都を橿原（奈良県）につくる際、天富命に皇居を造営

するよう命じました。そこで天富命は、手置帆負命（たおきほおひのみこと）、彦狭知命（ひこさしりのみこと）の二柱の神様の孫を引き連れて「斎斧（いみおの）神聖な斧」、「斎鋤（いみすき）神聖な鋤」を使い、初めて山の木を伐り、正殿を築きました。そして、各忌部氏族を率いて種々の神宝を作るように命じ指揮したのです。この時、天

日鷲命（あめのひわしのみこと）の孫は天富命に従い、阿波国麻植（後の麻植郡）において祭祀に使用する麻や「穀」（かじ）こうぞの一種、和紙の原料となる）の栽培をし、阿波忌部氏となります。その他、櫛明玉命（くしあかるたまのみこと）を祖とする出雲国の玉作氏（たまつくりし）、彦狭知命を祖とする紀伊忌部氏、手置帆負命を祖とする讃岐忌部氏、天目一箇命（あめのまひとつのみこと）を祖とする筑紫国・伊勢国の忌部氏など、忌部氏は開拓のため各地に広がり、多数の氏族に枝分かれしていきます。

房総半島に渡り、文化を伝える

天日鷲命の孫たちを従え、阿波国の開拓をした天富命は、さらに豊かな土地を求めて阿波忌部氏の一部を連れて海を渡ります。黒潮にのって東へ、やがて着いた土地が今の房総半島です。上陸した御一行はさっそく麻や「穀」を植えました。すると特に麻の育ちがよく、麻の古語である「総（ふさ）」から総国と命名しました。上総国、下総国という名称もここから由来します。また居住地には、祖神である天太玉命の社（現在の安房神社）を創建し、以前いた四国の阿波国の名をとって「安房」と名付けました。今でも房総半島に阿波国と同じ地名が多数あるのはこのためです。

安房の開拓を終えた天富命たち忌部氏は関東の開拓に乗り出します。房総半島を北上し関東一円に麻や「穀」を植え、養蚕や織物、製紙などの技術を伝えました。開拓を終えた天富命は当地においてになり、遠見岬（現在の八幡岬突



今も残る旧社地の一部（現在、平島）



八幡岬。もとは遠見岬と言い、天富命が居住し、朝夕に祖神・天太玉命の社がある安房国を遠望し、遙拝されたと伝わる



天富命によって伝えられた麻を紡ぐ



御祭神・天富命(安房神社所蔵)

大同2年(807)に齋部広成によって編纂された『古語拾遺』にも天富命の記述を見ることができる。



献上用の鯉の調製風景(昭和3年)



昭和40年代の勝浦漁港の魚市場奥に神輿が見える



当社から勝浦漁港方面を望む

端)に住まれ、先住民たちに漁業や農業、建築などの技術を教えました。現在、全国的に有名な勝浦漁港ですが、これも天富命の御事績といえます。

天富命が当地にお隠れになると、天日鷲命の後裔である阿波忌部氏の勝占忌部須立命(かつらいんべすすたつのみこと)が富貴島に社殿を建立し、開拓の祖神として御神霊をお祀りしました。これが当社の創建と伝えられています。また勝占忌部が住んだことからこの地は勝占(後に、勝浦・かつうら)と呼ばれるようになりました。勝浦は、天富命が最後に住まれた神聖な地なのです。

総国から安房国が独立。勝浦は安房と上総の境界の上総側に入りました。都に残された木簡から当時の勝浦の様子が見えます。木簡には、上総国から都へ運ばれた品物として、特に鮑が多く運ばれた記述が見られます。また、勝浦市守谷(もりや)のこうもり穴遺跡から、三世紀頃の鮑殻が多量に出土しました。

鮑は宮中での祭祀に用いられたり、殿上人に珍重された貴重な海産物でした。現在でも、鮑は勝浦の名産の一つ。当時から勝浦が漁業の町であったことがうかがえます。

そのため当社においても、「船霊様」の信仰が古くから残っています。船霊様とは、船に宿る神様のことで、海での漁や航海の安全を祈ります。古くは天富命が伝えた麻で作られました。嘉永五年(一八五二)頃に人形の形に変わりました。当時から、当社も漁の無事を祈願していたことでしょう。

勝浦城建設 海上の要衝として発展

天慶二年(九三九)、平将門が朝廷に對して乱を起こします(承平の乱)。その際、将門の参謀格であった興世王が勝浦に砦を築き、これがのちの勝浦城のもととなったとも言われます。鎌倉時代になるとこの砦は上総広常の支城となります。源頼朝が関東の経営に乗り出すと広常も頼朝に従います。しかし、謀反の疑いをかけられ謀殺され、上総は千葉氏や三浦氏に分配されました。

また一説には、大永元年(一五二二)

に、真里谷武田氏によって築かれたとも言われます。現在見る事ができない勝浦城を古地図によると、八幡岬から鳴海神社、その下の恵比寿地区まで、南北に長細い形状となっています。

天文十一年(一五四二)には、勝浦正木氏の初代正木時忠が勝浦城に入城。

二年後の天文十三年に、真里谷武田氏は滅亡します。その後、二代時通、三代頼忠の居城となり勝浦正木氏の統治が続きますが、天正十八年(一五九〇)、北条氏が豊臣秀吉によって滅亡すると、勝浦城も本多忠勝や植村泰忠らの軍勢に攻められ落城しました。この時、頼忠

の息女お方は炎上する城から母と弟を連れ八幡岬の断崖に白い布を垂らし海に下り、小舟で館山方面に逃れました。

現在も八幡岬にはお万布ざらしの伝承を伝える「お万の像」が建てられています。逃れる際には当社の側を通りぬけていったことでしょう。御祭神の加護篤く、お方は無事逃れのちに家康の側室となり、紀伊徳川家藩祖・頼宣、水戸徳川家藩祖・頼房の二子を産みました。

現在地に遷座 庶民の生活を守護する社へ

新たに勝浦を治めることとなった植村土佐守泰忠は、城下の整備に乗り出します。泰忠は半島西側に家臣団を住まいさせ、これが現在の中心市街のはじまりとされています。また日本三大朝市のひとつとして知られる勝浦の朝市が開かれ、商業発展が進められました。

慶長六年(一六〇二)、津波により当社の社殿が流され、社宝の多くが失われました。この時、一緒に流された御神体は、尊磯(たかいそ)現在の火防稲荷神社付近砂浜に流れ着き、発見した住民が「大明神、大明神」と連呼しながら、急いで地元名主の家まで抱えて走り、名主は御神体を白布で巻き、麻で縛り、さぞ寒かろうと甘酒、焼き米お供えしたと伝えられています。

この逸話を色濃く残したお祭りが今でも秋に行われています。一年で最も重要な祭典である例祭に、名主の末裔より奉獻された、麻、晒し布、和紙、甘酒、焼き米などが様々な神饌と共に御神前にお供えされます。そして神幸祭では、神輿が氏子町内を巡った後、社殿が流された際に御神体が流れ着いた尊磯まで渡御されます。尊磯に到着すると、宮司による神事が執り行われ、その後、「でんみより」という掛け声と共に遠見

八幡岬まで神輿を担いで走ります。「でんみより」とは、「大明神」が訛ったものと考えられます。

御神体は、流れ着いた社殿の一部と流木で仮宮を建て、一時期宮谷に祀られました。萬治二年(一六五九)、三代泰朝により現在の地に遷座されました。

現在地は町屋の中心であり、現在も当社の入り口では朝市が催されており、富大明神と呼ばれ、縁起良い名前から市の発展を当社に祈願したのでしよう。また遷座の年に植村氏は勝浦湾北方の串浜字新田内台に新たな館を築いて移りました。そのため、領主に代わって町の守護を祈願したとも考えられます。勝浦城を海上から守護していた当社は城下に遷り、人々の生活を間近に見守ることになったのです。

その後、宝暦元年(一七五一)六代恒朝は改易となり、代わって大岡出雲守忠光が治めることとなります。宝暦六年(一七五六)に、大岡氏は岩槻藩(現在



右: 当社に現存する最古の棟札
天文4年(1535) 子拜志(こばやし・小林)忌部の文字が読み取れる
左: 江戸時代までは富大明神と呼ばれていた

さいたま市岩槻区)に移ったため、勝浦には陣屋(役所)を置き統治しました。前記の船霊様が麻のものから人形に変わったのが嘉永五年(一八五二)のこと。人形の生産地として知られる岩槻の文化が当地にももたらされたと考えられます。人形が使われた船霊様は全国的にも珍しく、特殊神事となっており、勝浦の町は発展を続け、「勝浦三町江戸勝り」「江戸をみたけりや勝浦へ御座れ」とも呼ばれるようになります。

遠見岬神社に改称 そして現在

激動の幕末が終わった明治四年(一八七二)、新政府の社格制度の発令で遠見岬神社と改称され郷社に選定されました。江戸末期から明治にかけて、勝浦の町の発展とともに当社の祭礼も華麗なものへと変わっていききました。今も残る祭りの屋台は漆塗り、金箔、見事な彫物が施されており当時の繁栄ぶりがうかがうことができます。

明治二十二年(一八八九)町村制の施行によって、勝浦村が誕生、翌年には勝浦町となりました。明治四十四年(一九一一)にはそれまで毎年九月望(満月)の日に行われていた例祭が九月十三日



40万人の観光客が訪れるかつらぎひなまつり



明治42年の参道。鳥居前には橋があった



昭和30年代の船渡神事

に改められました。大正二年六月二十日には勝浦駅が開業すると、人や物資の流通が盛んになり、朝市が毎朝開かれるようになったのも明治から大正にかけての期間と言われています。また海水浴場として、観光客で賑わうように旅館等が建ち、観光としても発展していきます。

昭和三十三年に、千葉県十八番目の市として勝浦市が誕生しました。現在では、カツオの町として知られるとともにサーフィンのスポットや史跡めぐり、名物の勝浦タンタンメンなどを目当てに、多くの人が訪れる観光地となりました。

特に二月下旬から三月に行なわれるかつらぎひなまつりでは四十万人もの観光客が訪れます。平成十三年から開かれているかつらぎひな祭りは、御祭神ゆかりの徳島県勝浦町から七〇〇体のひな人形を譲り受けたことから始まります。勝浦の各所でひな人形が飾られ、当社では六十段の石段に二二〇体のひな人形が並び、一番の目玉スポットとして多くの観光客で賑わいます。

観光・漁業の町として発展した勝浦を今も当社は見守り続けております。

日本三大朝市のひとつ 勝浦朝市に行こう！

四百年の歴史を誇る勝浦の朝市は石川県の輪島・岐阜県の高山と並ぶ日本三大朝市のひとつです。年間二〇万の人が訪れる朝市には勝浦漁港で水揚げされた新鮮な海産物や加工品のほか竹細工・木工細工・わら細工などの工芸品も並びます。お土産に、グルメに、散策にちよつと早起きして勝浦朝市に行ってみましょう！



Information

- 時 間 6:00~11:00
- 定休日 水
- 場 所 JR勝浦駅より徒歩10分
月の前半(1日~15日)は当社周辺
月の後半(16日~月末)は
仲本町朝市通り

四季折々変わる勝浦の旬のもの

- 春** サヤエンドウ・ふき・カリフラワー・菜の花・わらび
ぜんまい・タケノコ・たらの芽・ノビル・イチゴ・蒲・桜餅
草餅・初ガツオ・ヤリイカ・ヒジキ・ワカメ・海苔 など
- 夏** トマト・枝豆・なす・きゅうり・オクラ・トウモロコシ
瓜・ゴーヤ・すいか・梨・メロン・プラム・甘夏・赤ジロ
梅・梅酢・あわび・さざえ・舌平目・カブトムシ
クワガタムシ・ほおずき・蓮の葉や花・提灯掛け用の竹 など
- 秋** さつまいも・さといも・自然薯・しょうが・キノコ類・柿
干し柿・栗・ぎんなん・あけび・お月見セット(ススキと団子)
下りガツオ・さば・さんま など
- 冬** ブロッコリー・大根・白菜・ほうれん草・ねぎ・ゆず・タコ
キンメダイ・ピンチョウマグロ・しめ飾り・わら・だいたい
など

天正十八年(一五九〇)、植村土佐守泰忠によつてはじめられた朝市は、城下の商業発展のために行われました。覚翁寺に所蔵されている市の定め書によると、酒の売買は勝浦城下だけに限定し、勝浦で市の開かれる日は、近郊の松部・串浜・川津・新官・吉宇では市を開かないように禁じています。現在は二ヶ所で行われている朝市ですが、江戸時代には十日ごとに上町・仲町・下町と場所を移動し、朝市を開いていました。この勝浦三町(上町、仲町、下町)は、「江戸勝り」と呼ばれ商業の町として発展しました。今も昔と変わらない活気に満ちた朝市をぜひ体験してみてください。



境内と歩く

社 殿 (右上:拝殿内観、右下:本殿外観、左:拝殿外観)
慶長6年(1601)の津波で流された後、萬治2年(1659)に当地に遷座された。現在の社殿は、嘉永2年(1849)に造営されたもの。

境内の四季



12~2月頃 水仙



3~4月頃 桜



4~5月頃 つつじ



4~5月頃 藤

6~7月頃 紫陽花



木漏れ日が
漏れる参道



手水舎

屋根は苔生し、春には桜の花びらがピンクの彩りを加える。



月読神社

月読命をお祀りする。



末 社

60段の階段を登りきると末社がある。向かって右から、福徳稲荷神社、伏見稲荷神社、金刀比羅神社。



60段の階段が参拝客を迎える。

一之鳥居

鳥居より中は神域となる。心静かに参拝の気持ちを整えましょう。



境内からは勝浦を一望できる

四季と彩るお祭り

例祭日

九月 十二日 宵宮

十三日 例祭

第三土曜日 神幸祭(神輿渡御)

日曜日 屋台曳き廻し

月曜日 屋台曳き廻し

船渡神事

主な祭典

一月 一日 歳旦祭

初旬 初詣・仕事始め参拝

十一日 明神講

十五日 八幡神社初祈禱

二十日 西宮神社二十日えびす

二月初旬 火防稲荷神社初午祭

節分 節分祭

上旬 人形感謝祭

十一日 紀元祭

十七日 祈年祭

第三土曜日 潮祭り

下旬

三月上旬 かつうらビッグひなまつり

六月 三十日 夏越大祓式

九月 十一日 明神講

十五日 八幡神社例祭

十一月 十五日 七五三詣

※ご祈願期間 十月より十一月末

二十三日 新嘗祭

十二月三十一日 年越大祓式

※都合により変更になる場合もございます。

一二〇〇体のひな人形が六十段の階段に並ぶビッグひなまつりや当社の故事に由来する例祭など当社では一年を通じて様々なお祭りがございます。ぜひ足をお運びください。



例祭時に市中を巡幸する千貫神輿



かつうらビッグひなまつりで行われる人形感謝祭



船渡神事



宮入では137段の階段を神輿が上る



神輿の彫刻は「波の伊八」四代・信明の作



例祭に彩りを加える豪華絢爛な屋台
彫り物は江戸末期の名工・嶋村俊表、嶋村俊正の作と伝えられる

歴史に触れる

御神宝

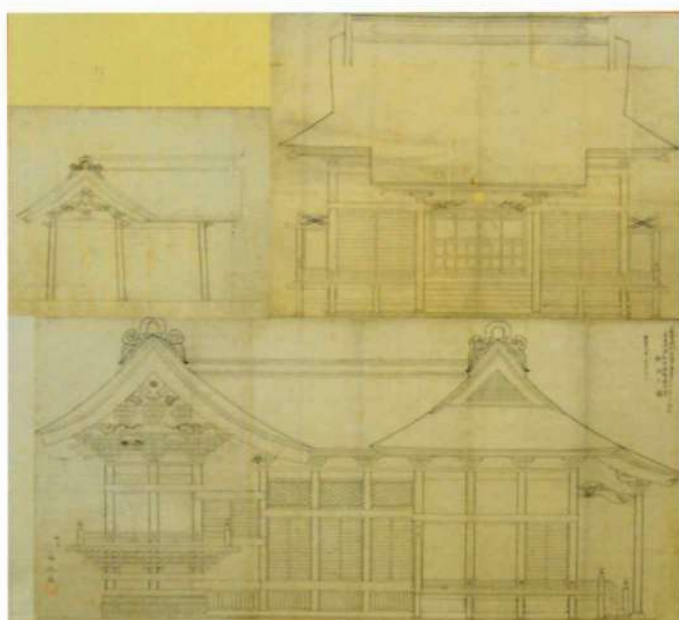
悠久の歴史息づく当社には、
数々の御宝物が保存されています。
御宝物の一部は社務所などで
ご覧いただけます。



波の伊八 彫刻

(上:本殿、左:神鏡台)

四代目(武志伊八郎信明)の作



嘉永二年造営社殿姿図

明治28年(1895)、当時の宮司により描かれた。



獅子頭

江戸時代(推定)と伝えられる。

昭和初期まで雨乞い神事に使用された。

木造狛犬一対

約500年前(安土桃山時代)、
勝浦城主正木頼忠によって
奉納されたと伝えられる。
平成23年修復。作者不明。





ぐるり勝浦 観光マップ



勝浦には、当社ゆかりの神社などのほかにも
日本三大朝市のひとつ・勝浦朝市や
八幡岬公園など、観光スポットがいっぱい。
お参りのあとは、勝浦を散策しましょう。

当社おみくじ。男性向けの勝男(かつお)みくじ(右)と女性向けの金女(きんめ)みくじ(左)。当社社務所にてお受けいただけます。

7 ハ幡岬公園

勝浦城址にある公園です。勝浦城の創建は諸説ありますが、確実なものとして天正11年(1542)に正木氏が居住した記録が残っています(詳細情報P5)。園内には散策路や子供の広場などがあり、展望広場からは勝浦灯台や勝浦湾を眺めることができます。

□場所 〒299-5233 勝浦市浜勝浦字郭内

8 お万の像

お万の方は勝浦城主・正木頼忠の娘で、のちに徳川家康の側室になった方で、ドラマで有名な水戸黄門の祖母にあたる人です。八幡岬の先端には、勝浦城落城の際にお万の方が断崖から布を使って逃れた「お万布ざらし」があります。(詳細情報 P5)

□住所 〒299-5233 勝浦市浜勝浦221

9 平島・富貴島(ふきしま)

現在の八幡岬の浅瀬一帯は、かつて当社境内地でしたが、慶長6年(1601)、社殿が津波で流されたことにより、当社は遷座されることになりました。そして元禄16年(1703)、大地震による地盤沈下によって、境内地が海へ沈み、八幡岬一帯は現在の姿となりました。平島にある鳥居が当時の面影を残しています。

(詳細情報 P3)

10 勝浦灯台

大正6年(1917)に設置された高さ21.2mの灯台です。内部は一般公開されていませんが、太平洋を一望できる景勝地となっており、日の出がすばらしいことで知られています。

□住所 〒299-5232 勝浦市川津

11 官軍塚公園

明治2年(1869)1月3日夜、函館五稜郭の榎本武揚鎮圧のために熊本藩兵350人を乗せた船が市内川津沖の岩礁地帯で難破し、130数名の死者を出しました。地元川津では総出で救助にあたり、遭難者を埋葬供養したのがこの官軍塚です。園内には斉藤茂吉歌碑、中村汀女句碑などがあります。

□住所 〒299-5232 勝浦市川津

12 宮谷

慶長6年(1601)から寛治2年(1659)まで当社の仮宮が建てられていた場所です。(詳細情報 P5)

1 遠見岬神社

2 勝浦朝市

天正18年(1590)に、領主・植村土佐守泰忠によってはじめられた朝市で、石川県輪島・岐阜県高山と並び日本三大朝市に数えられます。新鮮な海産物や加工品、野菜などの生鮮食品、竹細工・木工細工・わら細工などの工芸品が並びます。(詳細情報P7)

□場所 月の前半(1日～15日)は当社周辺
月の後半(16日～月末)は仲本町朝市通り

3 西宮神社

恵比寿神をお祀りする神社です。恵比寿神は、商売の神様として信仰を集め、市場のあるところに祀られる市神です。朝市のある勝浦でも恵比寿様として親しまれています。毎年1月20日は、二十日えびすが執り行われます。

□住所 〒299-5233 勝浦市浜勝浦171-1

4 火防稲荷神社

約100年ほど前に起きた勝浦大火の時、この神社を境に延焼が止まったため、火防稲荷神社と呼ばれるようになりました。開運・火防に御利益があると言われ地元の方々の信仰を集めています。毎年2月初午の日には火防稲荷初午祭が執り行われます。

□住所 〒299-5234 勝浦市勝浦92

5 鳴海(なるか)神社

主祭神は大年神、宇賀の御魂神などで、配神には江戸時代初期の領主・植村土佐守泰忠公が祀られています。天正18年から慶長16年(1590～1611)の間に、勝浦城主・植村土佐守泰忠公により守護神として創建されたと伝えられます。

□住所 〒299-5233 勝浦市浜勝浦251

6 ハ幡神社

菅田別命をお祀りしています。勝浦城の本丸に鎮座しており、天正年間に正木氏が勝浦城の守護としてお祀りしました。植村土佐守泰忠公以降も歴代城主から崇敬され、社殿の改修がされました。また漁民からも篤く崇敬されています。

□住所 〒299-5233 勝浦市浜勝浦220

遠見岬神社がある生活 くらし

神社は初詣や神前結婚式の時だけに訪れるところではありません。出産や厄年などの人生の節目節目の大切な時、あるいは心に思っているお願い事を神様にお伝えするところなのです。新しい車を買った、友だちが病気になったなど、神様の前でお祓いをされ、お祈りされてはいかがでしょう。か？ぜひお気軽にご相談ください。

ご 祈 禱

厄除	八方除	商売繁盛	社運隆昌
良縁祈願	子授け	学業成就	家内安全
交通安全	車 祓	海上安全	心願成就
身体健全	入試合格	開運招福	旅行安全
諸祈願祭	必勝祈願	人形 祓	報賽(お礼参り)

出張祭典 (神社の外でのご祈禱)

地鎮祭	上棟祭	新築清祓	改築清祓
解体清祓	火入式	進水式	船霊奉安祭
船 祈 禱(大漁祈願)		家庭稲荷祓	神 棚 祓
井戸 祓	慰霊祭	神 葬 祭	

人生儀礼

安産祈願	命名	初宮詣	七五三詣
入学・卒業・就職の報告		成人祭	結 婚 式
厄除祈願	長寿の祝い		

お申し込み方法

祭事の都合により、ご希望のご祈禱時間に沿えない場合がございます。なるべくお電話にてお申し込みください。

受付時間 午前9時～午後5時まで

遠見岬神社社務所

〒299-5233 千葉県勝浦市浜勝浦1番地

電話：0470-73-0034 FAX：0470-73-2007

H P：http://www.tomisaki.or.jp/



かつらびな祭り



遠見岬神社社務所

〒299-5233 千葉県勝浦市浜勝浦1番地

TEL : 0470-73-0034

FAX : 0470-73-2007

<http://www.tomisaki.or.jp/>